

晩夏

暑熱を洗い流す灰色の雲が見下ろしている

電柱の陰にべったりと座り込み
斑の年老いた猫が待っているもの——
それを私は一目見たいと思っている

*

何処に居ればいいのかわからないので
記号化された画面の中に身を預け
空間的な感覚が失われてゆくことに気付かない

コマーシャリズムは、能動的な権利を踏み潰しながら
手に有り余るほどの事実の山を無作為に積み上げ
あらゆる手を尽くし、大衆を細かく切り刻んでゆく

仕掛けられた罠から逃げ出そうとあがき始めた時
既に社会は満席で座るところなどなく
ただうろうろと邪魔くさく立ちすくむしかない

世界を背負えとの声高な強迫観念が大気を覆い
その一方で目の前に世界に恐怖し
歩くことさえ躊躇する

あらゆる人間は同列でなければならない
あらゆる人間は従順でなければならない
あらゆる人間は義務を果たさなければならない
あらゆる人間は立ち止まってはならない
あらゆる人間は、あらゆる人間は、

あらゆる人間は・・・ああ、もういい

*

小雨が落ち始めた

秋が来たのだ

老いた猫は待っている

私も待っている

(2011.8.19)